

【第2回セミナー】

やってみよう！みんなにとって使いやすい！
スポーツ施設のユニバーサルデザイン化って？

ユニバーサルデザイン化がもたらす未来



立命館大学産業社会学部 金山千広

障がい者スポーツ指導者協議会 研修部員 (2005～2022)
兵庫県障害者スポーツ協会理事・こうべ市民福祉振興協会理事

インテグレーション

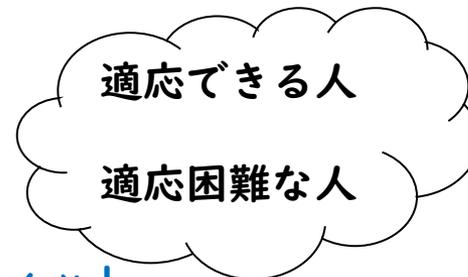
インクルージョン

バリア

簡単で分かりやすい

分かりやすいゴール

安全で便利



識別しやすい

楽な姿勢

気持ちにフィット

「あたりまえ」
みんなが使えるように

インテグレーション

適応できる人
ふつう

適応困難な人
特別扱い

リバースインテグレーション

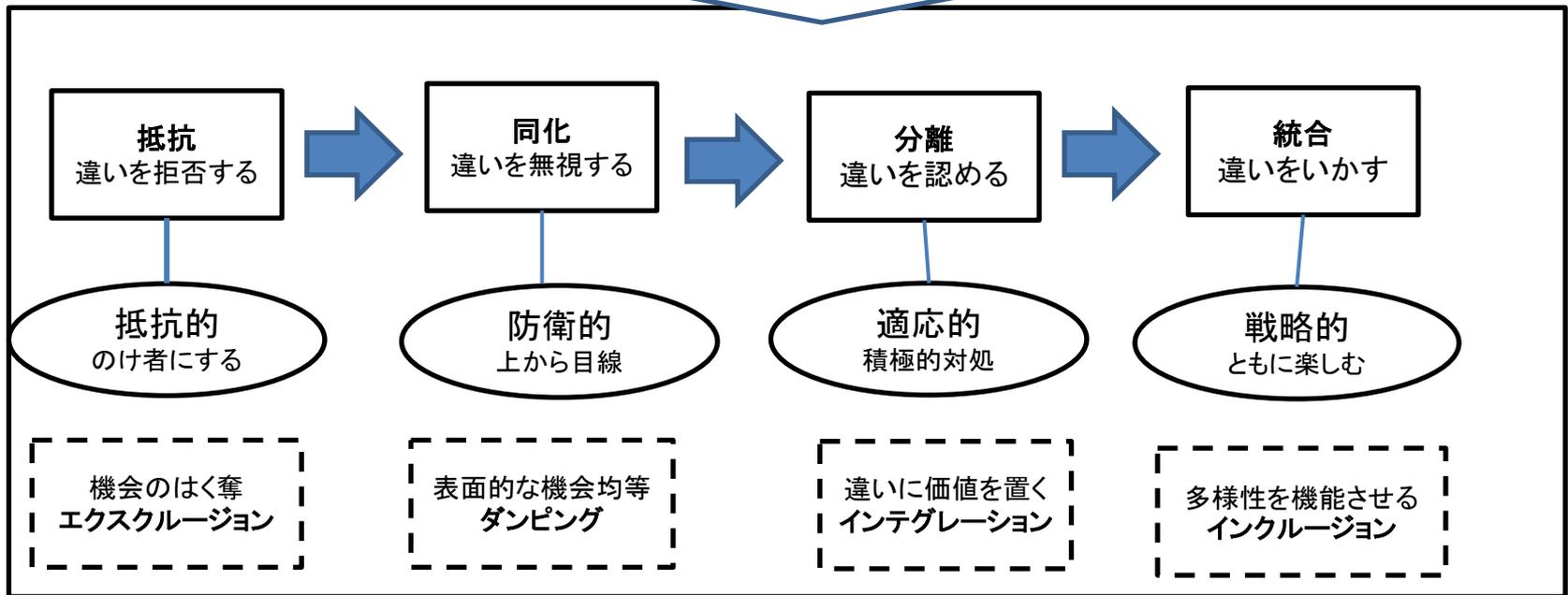


バリアフリーの発想

ユニバーサルデザインの発想

インテグレーションからインクルージョンへ

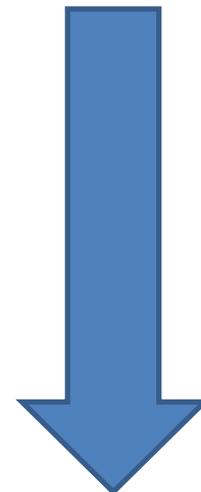
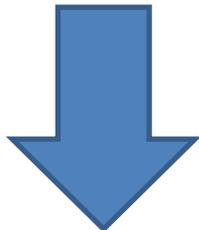
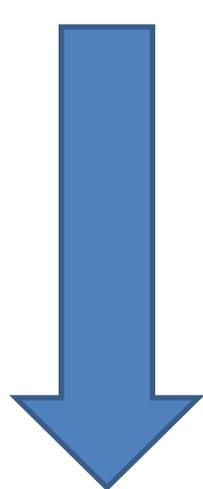




スポーツの機会を例にしたインクルージョンへのプロセス

スポーツによる便益 だれが得るのか？

均等な機会（公共スポーツ施設）



補償の公正
（障害者優先スポーツ施設）

選択肢の広がり

市場の公正
（民間フィットネスクラブ）

相互理解



リピーターの育成 : 地域におけるスポーツ実施率の向上

「一般公共スポーツ施設利用者」 障害者等を受け入れる場合の初期マネジメント



物的環境要素（分かりやすい情報）

- 利用しやすいことを形にすること
- サービスの提供過程

（スタッフの共感力）



職員個々が自らの判断で提供する。
接客、プログラム設定を重視する。

「利用者の状況に配慮した対応」

物理的な要件
(視覚的)コミュニケーションツール

誰もが利用しやすい施設

ユニバーサルデザインの7原則

ユニバーサルデザインの7つ指標

◆公平性

誰でも使えて
手にいれることができる

◆自由性

柔軟に使用することが
できる

◆単純性

使い方が簡単にわかる

◆わかりやすさ

使う人に必要な情報が
簡単に伝わる

◆安全性

間違えても
重大な結果にならない

◆省体力

少ない力で効率的に、
楽に使える

◆スペース確保

使うときに
適当な広さがある

スポーツ施設におけるユニバーサルデザイン化の考え方

- ✓ 誰でもいつでもどこでも、気軽に公平に利用・参加できる施設であること

例

- ・多様な属性に応じた用具や備品を整備する 等
- ・スポーツ施設のコンセプトがインクルーシブルである 等

- ✓ 一人ひとりの能力や価値観に合わせて柔軟に参加・利用することができること

例

- ・バリアフリーに加え、誰でも利用しやすい施設設計が行われている 等
- ・幅広い利用時間やプログラムを設定する 等

- ✓ 誰でも施設を直感的に効率よく参加・利用することができること

例

- ・施設内や機器等説明がなくても一人で利用できる工夫が施されている 等

- ✓ 施設内やスポーツ実施に係る情報がわかりやすく簡単に入手できること

例

- ・施設内の動線がわかりやすく構築されている 等
- ・音声案内や点字、文字表示等の様々な方法で情報が伝えられている 等

- ✓ 誰もがケガや事故、身体的負担、人権侵害にならず、のびのびと参加・利用することができること

例

- ・フルフラット、スロープや手すり等が設置されている等
- ・過度な補助ではなく、見守り体制が構築されている等

- ✓ 自然な姿勢で運動することができ、少ない力でも楽に利用することができること

例

- ・引き戸や左右対称の空間(手すり等)で構成され、誰もが無理なく利用しやすい 等
- ・簡易的な運動が展開、容易に参加することができる 等

- ✓ 施設内において、誰もがアクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

例

- ・プールサイドや駐車場のスペースを広く確保する 等
- ・通路等に物を置かない、整理整頓されている 等

Equitable use

Flexibility in use

Simple and
intuitive use

Perceptible
information

Tolerance for
error

Low physical effort

Size and space for
approach and use

ユニバーサルデザイン化がもたらす未来

ユニバーサルデザイン7原則+3

三菱電機株式会社デザイン研究所(2001) こんなデザインが使いやすさを生む :商品開発のためのユーザビリティ

- 連続性に配慮する
- 快適性を確保する
- 高次の心地よさをもつ

「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり」



楽しさの共有

ユニバーサルデザイン化がもたらす未来

スポーツを切り口とした 課題の表出化

- スポーツ施設のUD化
- さまざまな人がスポーツの「場」を共有することで社会参加できるようになる。
- よりいっそう社会的な課題に出会う機会が増える。
- 「スポーツを通じた共生社会の実現」を目指す過程を支援する装置の一つである。



日頃からスポーツ施設の現状を把握し、その対応策としての創意工夫や取組の検証、見直し・改善によるスパイラルアップが求められる。

スポーツを
「する」場

※「みる」場も
一部含む



つなぐ空間



ご清聴ありがとうございました

